14　　見るための難題　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法　副詞

読解　行動の理由をつかむ

昔、（現在のインド）の国にという聖人がいた。ある時、天魔（仏道の妨げとなる悪魔）が現れた際、優婆崛多は骨の首飾りを懸けて天魔を苦しめた。天魔が深くびたため、優婆崛多は首飾りを取ってやった。

　天魔喜びて、「①いかでかこの事をば報じ申さむとする」と言へば、優婆崛多のはく、「は仏の御有様は見奉りきや」と。天魔、「見奉りき」と言ふ。優婆崛多の宣はく、「我、仏の御有様極めて恋し。されば仏の御有様を㋐まねび奉りて我に見せてむや」と。天魔のいはく、「まねび奉らむことは安き事なれども、見て拝み給はば己がために極めてへかりなむ」と。優婆崛多のいはく、「我　　　拝み奉るべからず。なほ、まねび奉りて見せよ」と責めへば、天魔、「②ゆめゆめ拝み給ふな」と言ひて、林の中に歩み隠れぬ。

　しばらくありて林の中より歩みでたるを見れば、は、はの色なり。身の色はの色なり。光は日のはじめて出づるがごとし。優婆崛多、これを見奉るに、かねては拝まじと思ひつれども不覚に涙落ちて、して声をあげてく。③その時に、天魔もとの形にれぬ。「さればこそ」と言ひて㋑わびけり。

* 語注

報ず＝恩に報いる。

丈六＝一丈六尺のこと。尺・丈は長さの単位。一丈は約三メートル、一尺は約三〇センチ。

【原文】

　天魔喜びて、「いかでかこの事をば報じ申さむとする」と言へば、優婆崛多の宣はく、「汝は仏の御有様は見奉りきや」と。天魔、「見奉りき」と言ふ。優婆崛多の宣はく、「我、仏の御有様極めて恋し。されば仏の御有様をまねび奉りて我に見せてむや」と。天魔のいはく、「まねび奉らむことは安き事なれども、見て拝み給はば己がために極めて堪へ難かりなむ」と。優婆崛多のいはく、「我さらに拝み奉るべからず。なほ、まねび奉りて見せよ」と責め給へば、天魔、「ゆめゆめ拝み給ふな」と言ひて、林の中に歩み隠れぬ。

　しばらくありて林の中より歩み出でたるを見れば、長は丈六、頂は紺青の色なり。身の色は金の色なり。光は日のはじめて出づるがごとし。優婆崛多、これを見奉るに、かねては拝まじと思ひつれども不覚に涙落ちて、臥して声をあげて哭く。その時に、天魔もとの形に顕れぬ。「さればこそ」と言ひてわびけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　〕は、〔　　〕のお姿を見たいという優婆崛多の希望に、それを拝まないという申し出を受けて応じる。しかし、優婆崛多はその姿を見て〔　　〕を落とし、〔　　　　　　　〕しまい、天魔は〔　　　　　　〕に戻ってしまった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　本文中の空欄に入る副詞を次から選べ。〈３点〉

ア　など　　イ　いと　　ウ　さらに　　エ　え

〔　　　〕

問四　チェック問題　［副詞］

次の各文を現代語訳せよ。〈１点×５〉

１　よにの関はゆるさじ。　　　　　　　　　　　　（後拾遺集）

２　つゆたがはざりけり。　　　　　　　　　　　　　　（大鏡）

３　秋にはをさをさ劣るまじけれ。　　　　　　　　　　（徒然草）

４　常にはえまうでず。　　　　　　　　　　　　　　　（伊勢物語）

５　月な見給ひそ。　　　　　　　　　　　　　　　　　（竹取物語）

１〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

４〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

５〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①に込められた天魔の思いとして最も適当なものを選べ。〈５点〉

ア　感謝　　イ　後悔　　ウ　畏怖　　エ　敬愛

〔　　　〕

問六　傍線部②を現代語訳せよ。〈７点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③とあるが、このようになった理由を三十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問八　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈10点〉

ア　天魔は、優婆崛多が自分の魔力を信じていないことに対して、不満を覚えた。

イ　天魔は、卑しい立場の自分が尊い仏の姿に変身することにためらいを感じた。

ウ　優婆崛多は、悪行を繰り返した天魔をこらしめるつもりで、無理な要求をした。

エ　優婆崛多は、尊い仏の姿をぜひとも拝みたいという自分の思いにこだわった。

〔　　　〕

【解答】

問一　天魔／仏／涙／声をあげて／もとの形

問二　㋐＝まねをする　㋑＝つらく思う〈４点×２〉

問三　ウ〈３点〉

問四　１＝逢坂の関（の番人）は（あなたを通すことを）決して許さないだろう。

　　　２＝少しも違わなかった。

　　　３＝秋にはほとんど劣らないだろう。

　　　４＝毎回のようには参上することができない。

　　　５＝月をご覧にならないでください。〈１点×５〉

問五　ア〈５点〉

問六　決して拝みなさるな。〈７点〉

問七　優婆崛多が、仏をまねた自分（天魔）を見て感動し、拝んでしまったから。（30字）

〈12点〉

問八　エ〈10点〉

【現代語訳】

天魔は喜んで、「どのようにこのご恩にお報いしよう」と言うと、優婆崛多がおっしゃるには、「お前は仏のお姿は拝見した（ことがあるの）か」と。天魔が、「拝見した（ことがある）」と言う。優婆崛多がおっしゃるには、「私は、仏のお姿をとても見たい。それだから仏のお姿をまね申し上げて私に見せてくれないか」と。天魔が言うことには、「まね申し上げるようなことはたやすいことであるが、（あなた（優婆崛多）がそれを）見て（その姿を）拝みなさるならば私にとってきっと我慢できないことになるだろう」と。優婆崛多が言うことには、「私は決して拝み申し上げないつもりだ。やはり、まね申し上げて見せよ」とせがみなさるので、天魔は、「決して拝みなさるな」と言って、林の中に歩いて行き隠れた。

しばらくして林の中から歩み出た姿を見ると、身の丈は一丈六尺、頂は紺青色である。体の色は金色である。（その）光は太陽がはじめて出て来たよう（にまばゆいもの）である。優婆崛多は、これを拝見すると、前もっては拝むまいと思っていたが不覚にも涙が落ちて、伏して大声をあげて感涙する。その時に、天魔はもとの姿に（戻って正体が）現れた。（天魔は）「だから（言ったのだ）」と言ってつらく感じた。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「極めて堪へ難かりなむ」（４行目）について、「なむ」を文法的に説明せよ。

問２　現代語訳せよ。

①世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばや。（更級日記）

②たとひ耳鼻こそ切れ失すとも　（徒然草）

③ゆめ、こと男したまふな。　（大和物語）

【補充問題解答】

問１　な…強意の助動詞「ぬ」の未然形　む…推量の助動詞「む」の終止形

問２　①世の中に物語というものがあるそうなのを、何とかして見たいものだ。

②もし耳や鼻が切れてなくなっても

③決して、他の人と結婚しなさるな。